

Title	観光ホテル・旅館ホテルの事業再建
Sub Title	
Author	宮沢隆彦(Miyazawa, Takahiko) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1726号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1726

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	鈴木	研究会	学籍番号	80028897	氏名	宮沢隆彦
(論文題名)						
観光ホテル・旅館ホテルの事業再建						
(内容の要旨)						
<p>レジャー産業の多様化に伴い、温泉地を中心とした日本の観光ホテル・旅館の経営環境は、非常に厳しい状況である。旅行者者に依存した団体客中心の事業構造に限界が見え始めている。</p> <p>本論文では、旅行者者頼みの販売戦略からの脱却と投資政策の見直しが必要ではないかという問題意識から検討を開始した。そこで観光ホテル・旅館の再建に必要なのは、従来の売上高からキャッシュフローの最大化にあるという仮定のもと、キャッシュフローに影響を与える要因を、経営者の視点より分析した。したがって、従来の売上高を重視していた観光ホテル・旅館とキャッシュフローを重視している観光ホテル・旅館の経営の違いを明確化し、事業再建に有効な手段をモデル化することが本論文の主要なテーマである。</p> <p>まず文献研究より、観光ホテル・旅館の各事業活動においてキャッシュフローを増加させる要因を抽出した。そしてインタビューによる検証を行い、新しい観光ホテル・旅館経営について提案を試みた。</p>						